

「産業ガスサービスプロバイダーを目指す」 リキッドガス事業ホールディング体制スタート 東京ガスケミカル 石井敏康 社長

東京ガスケミカル（石井敏康社長）は4月1日付で設立された東京ガスのリキッドガス事業を統括する東京ガスリキッドホールディングス（村関不三夫社長）の傘下に入る新しい体制となった。

リキッドガス事業は東京ガスケミカル、東京ガスエネルギー、日本超低温の3社で構成される。LNG、LPガスの液化ガスエネルギーと冷熱利用の空気深冷分離事業及び低温倉庫の共通軸で結ばれている。中核をなすのは東京ガスケミカルである。新体制と同時に同社は石井敏康氏を新たに社長として迎えた。今後、この体制で何を指していくのかを石井社長に訊くことにした。

リキッドガス事業でHDを形成

石井氏は84年に東京ガスに入社、産業用都市ガス営業で



約12年と最も長く、2000年以降は電力事業に9年間携わってきた。この間にはリビング系でマンション向けガス設備の営業も経ている。

「電力事業は産業用分野でコージェネレーションの営業部隊にいた関係で接点が生まれ、電力事業立ち上げに携わるきっかけとなりました。産業ガスについてはこれまで殆ど接点がありませんでした。全くのど素人です（笑）」

では、就任して約4ヶ月、産業ガス事業の印象はどのようなのか。

「商慣習は違います。東京ガスの大口販売は何でも直販です。基本的にはディーラー様や販売店様などが存在しません。むしろ都市ガス事業が特異といえるかもしれません。また、セパレートガスが差別化しにくい製品であることも分かりました。空気といふどこにでもあるものを原料にして動力があれば製造できる点が特徴ですね。」

東京ガスリキッドホールディングスという新組織に属して変化はあるのだろうか。「私もホールディングスの

取締役を務めており3社の状況報告を受けています。かたちの上では東京ガスの孫会社になったわけですが現時点で特に変化があるわけではありません。但し、リキッドガスに関わる事業を大括りですとめ、より現場に近い場所です。決定を行おうとの考えです。

リキッドガス事業をまとめるにあたって出資形態も違うためホールディングスという形を取ったと言えます。今後3社は情報交換を密にしてシナジー効果をあげていきます。」

では新生「東京ガスケミカル」の取り組みについては。「私共の原点であり、強みとなるのはLNG冷熱の有効活用です。基本的に東京ガスケミカルが冷熱活用を軸に産業ガス事業に参入したのは、効率的にセパレートガス生産が出来ることがあったからです。しかし、市場が成熟化する中で単なる産業ガス供給者では生き残れない。いま東京

ガスは総合エネルギー事業、エネルギーサービスプロバイダーを標榜しています。ガスも電気も熱も全てをお届けす

蒸留性能の極みへ

不規則充填物のエンジニアリングサービスを担います。プロセス設計から含め、全ての充填物の性能計算・設計が可能です。幅広い材質対応に加え、インターナルス・塔本体と周辺機器まで一貫対応しております。

高性能不規則充填物 — Cascade Mini Ring —



■対応材質

- ・SUS304
- ・SUS304L
- ・SUS316
- ・SUS316L
- ・SUS317L
- ・SUS329J4L
- ・SUS410S
- ・CS
- ・チタン(TP340)
- ・HC-276
- ・HC-22
- ・アルミニウム
- ・ニッケル
- ・モネル
- ・銅

マツイマシン 株式会社

URL : <http://www.matsuumachine.co.jp/>

E-mail : cmr@matsuumachine.co.jp

お問合せ先：本社 TP1 部 TEL 06-6581-3030

東京ガス及びグループとの連携強化

そこで必要不可欠になるのが東京ガス産業用営業部隊や同社グループとの連携である。

「都市ガスの全面自由化によって事業の垣根がなくなることで東京ガスの大口の工場や病院向け営業部隊と緊密に

る。それに做ったわけではありませんが、私共は「産業ガスサービスプロバイダー」を目指します。お客様の必要とするものをワンストップで提供することを意味します。」

タイアップすることが可能で営業強化を図っていききたい。エネルギーに産業ガスを加えることで品揃えを拡げ、総合的にお客様の要望に応える仕組みをつくる必要があります。実際に、コージェネを含むエネルギーサービス事業を行う東京ガスエンジニアリングソリューションズと産業ガスなどの商材を組み入れていく話し合いを進めています。もちろん東京ガス本体の大口営業部隊とも行っています。」

その中でも都市ガス改質水素オンサイトは連携がしやすい分野である。